

□議員名：中村博行

1 地域農業の持続可能性を担保、支援する施策の推進について

論点	地域農業の活性化はもとより、将来へ良好な農地をつなぐ意味を持つ川東地区圃場整備計画は順調か、進捗状況について問う。
回答	令和2年度当初予算では、令和6年度からハード事業の整備工事開始、令和11年度に事業完成のスケジュールであった。集落営農法人「四本松」の設立など順調な面もあったが、人件費や資材費の高騰、国の予算配分など不透明な部分もあり、後年にずれ込むこともある。

論点	市内他地区においても圃場整備の要望があると思うが、準備など、具体的な説明や指導はしているか。
回答	地域計画作成のための市内各地協議では、基盤整備を望む農業者が一定数いたが、具体化している地区はない。沖開作地区は十分な農用地があり、農業法人も存在しており候補地となりうる認識をしている。事業実施となれば市、県、関係団体とも協議、支援をする。

論点	国の制度対象にない親元就農者への支援こそ、中小規模農家が代々営農を続けていける。親元就農者支援について検討してはどうか。
回答	新規就農育成総合対策経営開始資金の運用など、国の支援事業はあるが、既存の営農をそのまま引き継ぐ場合は補助の対象にはならない。本市の農業者支援の事業も様々あるが、定年退職後に親元就農する方についての支援体制は整っていない。今後研究していく。

2 藤田市長の政治姿勢とまちづくりについて

論点	平成29年4月に第2代山陽小野田市長に就任され7年8か月余りが経過した。この間の実績をどう捉えているか。
回答	市長就任以来、「協創によるまちづくり」を掲げ、本市の持続可能性を高め、誰もが笑顔で暮らせる活力あふれるまちの実現に全力で取り組んできた。任期中、第二次総合計画前期基本計画、中期基本計画を策定し、スマイルシティ山陽小野田の実現に歩みを進めてきた。

論点	山陽小野田市の今後の課題とこれからのまちづくりについてどう考えているか。
回答	全国の地方自治体の共通の課題の一つが人口減少である。その対応として組織の充実や国の施策、交付金事業との連携、移住定住策の推進、RMOを推進した新しいまちづくりの形態の確立、他に山口東京理科大学の発展など本市の特徴、強みを生かした事業に取り組んでいきたい。

論点	来る令和7年4月に執行予定の山陽小野田市長選挙に対する考え方を確認したい。
回答	「活力と笑顔あふれるまち～スマイルシティ山陽小野田～」実現に向け、様々な事業に取り組み市政を推進してきた。これからやりたいことは持続可能なまちづくり、まち育てである。三たび市政を担わせていただき、総合計画の集大成の歩みを進めていきたい。